



コウノトリの郷に学ぶナギの郷づくり
第8回 有明海再生・近藤潤三 追悼記念講演会

日時 2017年 **9月17日(日)**

開演/13:00~15:00

場所 **柳川市民会館 大ホール**

住所/福岡県柳川市坂本町29-2

参加費 **無料**



主催/有明海再生講演会実行委員会

事務局/NPO法人spera森里海・時代を拓く TEL0944-72-2424

三井物産環境基金

コウノトリの郷シンポジウム趣旨

自然と共に生きる社会へ向けて 九州北部を襲った集中豪雨は、昨年の熊本地震に続いて、再び自然の圧倒的な力を見せつけました。「自然への畏敬の念をもって、自然と共に暮らす」国づくりが求められます。

今、私達は大きな文明の分かれ道に立っています。今を生きる私たちだけの都合ではなく、続く世代のために、自然と共に生きる、より安全で安心して暮らせる社会に作り直せるかどうかの分かれ道です。自然と共に生きる道は、身の回りの多くの生きもの達と共存する社会に作り直すことと言い換えられます。

九州の宝、有明海の再生へ向けて 豊かな自然に恵まれた九州の中央に位置する有明海は、いのち溢れる限りなく豊かな海でしたが、今では、深刻な“瀕死の海”に至っています。有明海の深刻さが端的に現れているのが干潟の疲弊といえます。干潟とそこに生きる多くの生きものの復活への熱い想いをもとに「おきのはた水族館」（柳川市）を立ち上げ、有明海の再生に奔走されていました近藤潤三さん（有明海を育てる会会長）が、思い半ばにして5月に他界されました。若者に水族館を託し、私たちに「有明海を頼む。アゲマキとタイラギを頼む。」と限りなく重い言葉を残されて。近藤さんのご遺志を受け継ぎ、若者が主役になる“宝の海”再生へ向けて、本追悼シンポジウムを企画致しました。

コウノトリの郷づくりに学ぶ 誰しも願う自然の再生は簡単なことではありません。しかし、そのことが未来を担う子供達も参加しながら、地域で回る経済の活性化につながれば、経済界を含む多くの関係者の輪が広がり、地域創生の確かな道が拓けます。その先駆的事例が、兵庫県豊岡市で進められてきた「コウノトリの郷づくり」といえます。本シンポジウムでは、世界も注目する取り組みを先導されてきた豊岡市長中貝宗治氏をお招きし、自然環境の再生が、地域の経済、観光、教育、文化などの総合的向上につながることをお話いただきます。柳川の掘割の「二ホンウナギの郷づくり」や有明海の干潟の再生に、多くの示唆が得られるものと思われます。有明海再生への近藤さんの想いを次世代につなぐ本シンポジウムへ、多くの皆様のご来場をお待ちしています。

中貝宗治 市長プロフィール



文豪・志賀直哉の短編「城の崎にて」で知られる温泉街と奈良時代から続く日本の7割を製造するカバンの生産地である兵庫県豊岡市の市長（4期目）。コウノトリの郷づくりを進め農林水産部を環境政策も併せて当てるコウノトリ共生部として再編。現在は農業だけでなく様々な分野で経済に裏打ちされた環境への取り組みを持続する政策に取り組んでいる。

劇作家の平田オリザ氏が芸術監督をつとめ世界の芸術家が滞在し作品制作を行う城崎国際アートセンター」の開設など豊岡にしかないモノやコト、ヒトを生かしてすごい価値が生まれ、突き抜ける「小さな世界都市」を目指している。平成29年の九州北部豪雨では台風23号で死者7人の大水害を経験した水害サミットの発起自治体の1つとして国土交通省からの要請で「ノウハウ支援」のため朝倉市に職員を派遣した。好きな言葉は「夢はでかく 根は深く」「願うこと 願い続けること 投げ出さないこと」昭和53年京都大学卒業後に兵庫県入庁、平成3年から兵庫県議会議員を勤め平成13年から豊岡市長。昭和29年11月4日、兵庫県豊岡市生まれ。